がいちばんいいと思うのだけれど、朝に時間を作るとなるとやっぱりなかなか難しくて、せめて昼間に歩くようにしている。一人だと億劫なことも仲間がいると続けやすい。

歩く欲求に関して言うと、スペインの巡礼路（じゅんれいろ）を徒歩で 230 キロメートル辿った親戚の夫婦がいる。スペインを横断するこの道はぜんぶで 800 キロ近くあって（ちなみに沖縄本島の南北端は直線距離で約 106.6 キロ）、時をあらためてまた続きを歩くつもりでいたら、コロナの世になってしまったのだった。ただただ歩くだけのこの旅がキリスト教圏の人にかぎらず人気だそうで、そう言われると一生に一度くらいは歩いてみたいような気もしてくる。ひたすら歩いているあいだは「もううんざり」と思っても、歩かない日常に戻ってくるとすぐにでも「また歩きたい」とうずうずしてくるそうだ。

この「ただ歩く」ということが人間にとっていかなる意味を持っているのかというと、実はいちばんには「意味を手放すという意味」があるのではないかと少々ひねくれたことを思っている。無為徒食（むいとしょく）という言葉が端的に示すように、「ただ生きる」ということがひどく苦手で、目的や意味を絶えず探しがちな我々なのだが、立ち止まってみて、人生で本当に幸せな時間というのを考えてみると、「ただ食べる」とか「ただ眠る」とか「ただ歌う」とか、つかのま、意味と切り離されるそういう時間に帰着しはしないだろうか。

逆に言うと、幸せでない時間は、成果やら生産性やら意味づけに追い回されているときであって、それはどう考えても人生の本質とは無縁のものに思えるのだけれど、無為徒食の烙印（らくいん）を押されないためには、世のなかに多々（たた）あるそうした意味のない意味づけの社会活動に参画しなければならず、おおむねそのために汗を流す日々である。（増山）

◎編　集　後　記◎

沖縄は例年よりも早く梅雨入りし、只今、梅雨真っただ中！皆さんいかがお過ごしですか？

私は、梅雨時期と言えばの【よへなあじさい園】へ行ってきました。30 万輪のお花に癒されましたよ。　　奈

編集：公益社団法人　沖縄県精神保健福祉会連合会
会長　　山田　圭吾
〒901-1104
沖縄県島尻郡南風原町字宮平 206-1
てるしのワークセンター内
電話 098-889-4011　FAX098-888-5655
E-mail　terushino@castle.ocn.ne.jp
発行：九州障害者定期刊行物協会
〒812-0044
福岡市博多区千代 4-29-24 三原第 3 ビル 3F
電話 092-753-9722　FAX092-753-9723
定価：10 円（会費に含まれる）